

②前兆現象の巡視・点検のタイミングと着目点

前兆現象の巡視と点検のタイミングと着目のポイントは、下表のとおりである。

消防団、自主防災組織、市町村防災担当者は、前兆現象を発見した場合、市町村等防災部局に連絡するとともに切迫した状況と判断した場合には住民の自主避難を促す等の適切な行動をとる必要がある。

住民は、平常時・降雨時に自宅周辺の斜面や溪流について前兆現象に注意する必要がある。この際、例えば斜面の湧水箇所、溪流の水位を確認できる橋脚等、また大雨時・夜間でも確認できる箇所等のポイントを事前に定めておくことが大切である。

前兆現象の巡視・点検ポイント

	がけ崩れ危険箇所	土石流危険溪流	地すべり危険箇所
平常時	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面の状況(亀裂・はらみだし・浮き石の有無) ・湧水箇所とその量 ・擁壁の変状 ・立木の変状 	<ul style="list-style-type: none"> ・溪流上流の崩壊の有無や溪流堆積物の状況 ・砂防えん堤の堆砂状況 ・溪流の水位 	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面の状況(亀裂・はらみだし) ・擁壁、路面、家屋等の変状 ・立木の変状 ・地下水位、湧水の濁り・量・変位量(伸縮計等)の確認クラックの拡大
大雨時	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水量の増加、濁り ・新たな湧水箇所 ・落石、斜面の変状 ・表面流の発生、増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・溪流の水位、濁り具合 ・石の流れる音 ・樹木の流れる量 	<ul style="list-style-type: none"> ・井戸水の水位の低下 ・亀裂の広がりが
大雨後	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生した場合にはその箇所の変状 ・災害が発生していなくても、平常時との変化(砂防えん堤の堆砂状況、斜面の変状等)の確認 		